

美唄発、利雪産業クラスター 形成に向けて！ 黒いダイヤから白いダイヤへ

黒いダイヤこと石炭に沸いた空知管内の美唄市が、今度は白いダイヤでまた大きな夢を実現しようとしています。その白いダイヤとは、毎年冬になると天からやってくる雪。環境に優しい、雪の冷熱エネルギーで地域経済の自立、新産業の創出へ。その可能性は無限大です。



美唄自然エネルギー研究会
事務局 金子 幸江さん

産学官が平成9年に組織

雪国では、冬になると大量の雪が降り積もり、そこに美しい情景を生み出しますが、時には嫌われることも。果たしてその雪はやっかいものなのでしょうか？

平成9年、美唄市では雪が持つ冷熱エネルギーに着目し、クリーンな自然エネルギーを利用した産業の形成を目的に産学官で組織する、「美唄自然エネルギー研究会」が設立されました。

利雪で美唄を 大規模冷温食糧備蓄基地へ

では、なぜ美唄では雪にこだわったのでしょうか？事務局である美唄市産業振興課の金子幸江さんは「昭和30年代初期まで美唄市は石炭で栄えましたが、エネルギー政策転換後は農業が基幹産業となりました。加えて稲作の収量は道内4位、全国9位を誇り、年間降雪量は8～11mという特別豪雪地帯。ところで日本人の主食であるお米が大変な不作となり、海外から輸入することとなった平成5、6年の“平成米騒動”で、

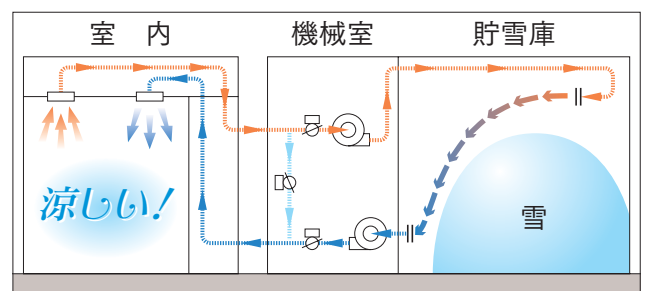
皆さん、お米の安定供給がいかに大切であることを痛感したと思います。毎日、当たり前のように国産の白いご飯が食べられるって、実はすごいことなんですよ（笑）。

しかも、世界の人口は増えており、脅かすわけでは



⇐雪冷蔵貯蔵による独自ブランド米「雪蔵工房」

↓「全空気循環方式」雪冷房概略図



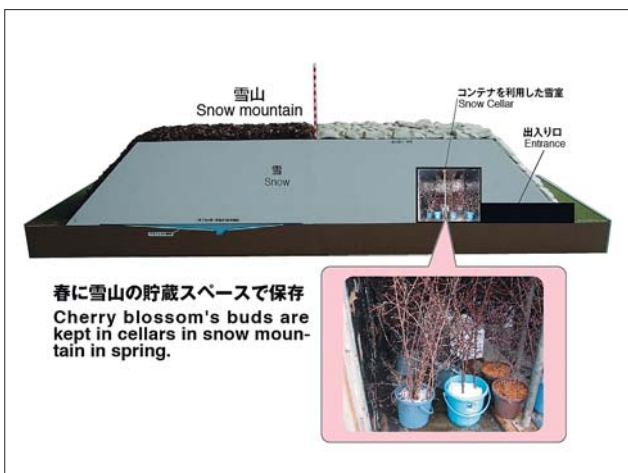
ありませんが、いつ食糧の争奪戦が起こってもおかしくない状況。けれども美唄だったらお米が取れ、雪の冷熱で新米の食味を損なうことなく美味しく保存が可能ですし、実際、JAびばいで雪を利用して貯蔵したお米を市場に出していますが、大変評判が良いと聞いています。また、お米に限らず、アスパラなど野菜類の雪冷蔵も行われており、将来は大規模冷温食糧備蓄基地へと夢は広がっています。もともと先人は雪を使って布地を染めるなど、雪と上手に付き合ってきた長い歴史があります。

北海道なら当たり前のようにあるコストゼロの雪で新しい産業の創出、地域経済の自立は高い可能性を秘めていると、美唄自然エネルギー研究会は考えます」と、声のトーンも一段と上がります。

雪山で桜の開花を調整。 洞爺湖サミット会場を飾った美唄の桜

雪は非常に優れたエネルギーであり、なぜならば雪1トンで原油換算で10リットルに相当し、原油10リットルから二酸化炭素30kg排出するところを雪なら何も汚さず環境に優しく、しかも最後には水資源としても利用できます。塵や埃、水溶性化学物質の除去効果もあります。こうした雪の特質を捉えて美唄自然エネルギー研究会では、金子さんの話の中にも出たJAびばいの米穀雪零温貯蔵施設や、JAびばい氷室貯蔵研究所など農業施設をはじめ、賃貸マンションや老人保健施設、公営温泉施設といった生活空間の冷房にも利用されています。

また「雪山は宝の山」とばかり1,000トンの大量の雪で雪山を作る「雪山職人」を独自に養成。その雪



春の桜が真夏に咲きました（雪の中で開花抑制した植物は、温かい外気に触れると眠りから目を覚まします）



山できれいな雪を保存しイベントで使用し話題を提供しているほか、球根開花や桜の開花を抑制。洞爺湖サミットでは美唄の「雪山桜」が来賓の目を楽しませました。利雪のメリットはまさに無限大です。こうした美唄自然エネルギー研究会の活動は平成14年度、新エネルギー財団から「資源エネルギー庁官賞」を授与されるなど、数々の表彰の実績があります。

今後について金子さんは、「例えば、データセンター等での施設冷房。なぜ、雪国で雪の冷熱を効率的に利用しないのかしら？ 別にデータセンターは地域性を問いませんから、美唄にあってなんら不便があるでもなく、新しい雇用だって生まれるでしょう。雪の冷熱エネルギーの活用の仕方次第で、地域経済はいくらでも活性化されます」。そして、最後にこう力強く締めました。「黒いダイヤから、雪の白いダイヤへ。この言葉に尽きるんです」



美唄「雪山桜」